

問診と検査とカウンセリング(二診目)

目的

・状態の確認と認識

初診時からの変化を、問診(主観)と検査(客観)で確認する

問診 → 患者自身が変化を言葉にすることで再認識する

→ 初診時の状態と比べる事で患者が気付いていない変化を認識してもらう

→ 関連症状なども確認する

検査 → 客観的な変化を認識してもらう

カウンセリング → 初診時の予想が正しいか修正が必要か

ストレッチのチェック → 教えっぱなしにしない

・ラポール形成

初診時の信頼を確定する→本当に通うかは二診目で決める

希望が持てるように (P)、間違っていなかったと感じられるように (N)

・治療計画の再提案 (内容と頻度)

検査結果とカウンセリングをもとにメニューと頻度を再提案する

二診目を3日後にする理由

・変化は3日程度

本当に治っていないものは3日で症状が再発するため改善スピードが下がる

患者は現時点しかみていない(忘れる)ため満足度が下がる

・構成要素が増える

カウンセリングの精度が下がる